

市長と語ろう！子育て世代ミーティング【概要】

平成27年12月20日(日)

10時30分～12時

子ども未来センターくるりん子育てひろば

1 開会の挨拶

(市長)

皆さん、おはようございます。行政を担って、あるいは進めていくためには、ある程度の長期計画を立て、計画的に行政を運営していかなければならないということがございます。今年度より第4次長期総合計画がスタートいたしました。立川市では4回目の計画になります。

この計画では「にぎわいとやすらぎの交流都市 立川」をまちづくりの将来像とし、その実現に向けた5つの都市像を定めております。1番は文化や子育てをしっかりとやっていきましょう、2番目が安全で、環境にやさしくて安心して住めるまちをつくっていきましょう。3つ目が「人々が交流し」と示してあります。実は立川の人口は今、18万人弱です。JR立川駅周辺のにぎわいを見ると、誰がどう見ても18万人とは思えない。立川には、1日で40万人ぐらいの人たちが来ているだろうと言われております。ですから、立川の特性としては、多摩全体あるいは全国からも立川に集まってくるお客さんが多い。大勢の人に観光やら仕事やら買い物やら、いろんな形で立川に来ていただくことが立川の生命線だろうということで、「交流都市 立川」にしていこうということでもあります。にぎわいだけというと、なかなか殺伐なイメージがありますが、JR立川駅から2キロから3キロ北側へ行きますと、五日市街道があり、玉川上水があり、まだまだ畑に象徴される緑の多い土地が広がっています。農地は今、立川に約290ヘクタールあります。多摩26市の中で3番目に農地が多い都市です。ですから、駅周辺の「にぎわい」と、駅から2、3キロ離れた地域の緑に象徴される「やすらぎ」のまちづくりをしていこうということがございます。

もう一つは、3年ほど前に、誰にも見守られずに孤独死されたという事故が1か月ちょっとの間に2件連続で起きてしまいました。これはいかに周囲の社会の目がその人たちに届いていなかったかであります。お節介かもしれないけれども、街中ではできるだけお互いが交流して、横のつながりをつくる。2、3日顔を見なければ、「あの人、どうしたんだろうな」と、地域で心配してもらえるような見守りを、まち全体に広げていこうというまちづくりであります。

最後は、行政改革に象徴される分権型のまちづくりです。要するに自分たちでできることは市民自身がやるよ、市民自身にはできないことについては行政できちんとコストを考えながらやっていきますというまちづくりです。この5つの都市像をイメージしながら市の行政をやっているということがございます。

そういう中で、まだまだ時代とともに社会状況あるいは価値観が変わるものですから、毎年、市民の皆さんから直にいろんなご提案やお話を伺うということで、今日のようなタウンミーティングをやらせていただいております。今日は子育て世代ということですが、私は息子が3人おまして、それぞれ結婚しており、ちょうど今日、集まっている保育園から幼稚園ぐらいの孫が4人おまして、今、子どもたちの顔を見るたびに気持ちがとても和

んでしまって、冷静にお話ができるかなと心配しておりますが、ぜひよろしく願いいたします。

2 意見交換

(参加者)

今、小学3年生と5歳の保育園児と9か月の子どもがいます。

柴崎町は児童館がないです。児童館のお知らせがいろいろ来て、近くだと錦児童館や富士見児童館になるんですけども、どれも遠いです。小学校3年生だからまだ自転車に乗れないから行けないし、9か月の子どもを連れていくのに、気候とかにもよって行くのが億劫になってしまって、せっかく市でいろいろイベントをしていただいているのに行けないのは、柴崎町の難点だなと思うんです。

もう一つ、小学生のことで、共働きなので、学童に行きたいんですけども、柴崎学童は今、小さい子が増えていて、3年生はほぼ入れないんです。かつ児童館がないので、夏休みなど長期の休みになると、ボランティアに預けたり、親が休みをとれないときは習い事をやらせたりという状況なので、児童館があるとすごく助かるなと思っています。

(市長)

確におっしゃるとおりです。

実は、特に一小は、放課後子ども教室が立川で一番充実しているところです。年間150日から200日ぐらいやってもらっていると思います。地域の人たちが児童館や学童がないので特に気を使ってやってくれているんです。

詳しくは担当部長からご説明します。

(子ども家庭部長)

まず、児童館は全部で8館あります。地区を考えますと、富士見町から始まりまして西砂町まで市内16町ありますので、2つの町に1つの割合になります。ですから、柴崎町に限らず、児童館のない地区が、町別で見るとあります。

今のところ、おおむね市内で8館の考え方で進めております。ですから、柴崎町に一番近いところは錦児童館となります。それから、市内に小学校が20校ありまして、それぞれ「放課後子ども教室」を実施しております。今のところは市内8館以外に児童館を設置する考えはありませんけれども、このような形で補完できているという認識であります。

保育園につきましても待機児童がおりまして、待機児童対策を進めて枠を広げているところです。また、学童保育に関しては今年度から子ども・子育て支援新制度が始まりまして、6年生までを受け入れるようになりました。立川市でも1年生から6年生まで受け入れていますが、1年生を優先してそれから順番に2年、3年、高学年という形をとっております。学童保育所の待機児につきましても、例えば小学校が建て替えをするときにはその中に学童保育所をつくるか、保育園の建て替えをする際に、そこに合築で学童保育所をつくっていくという考えで今後の対応を考えているところです。低学年が多い学童につきましても、申しわけございませんけれども、待機いただかざるを得ない現状をご理解いただきたいと思います。

(参加者)

既存の公共施設を放課後や夏休みなど長期休みの間、開放してもらうことはできないでしょうか。新たに建てなくてもいいので、そういうスペースを長期の休みとかに利用していいよというわけにはいかないでしょうか。

(市長)

先ほど各小学校で放課後子ども教室を実施していますとご案内しましたがけれども、第一小学校は非常に活動的で、多くの方に参加いただいております。実は現在の放課後子ども教室の何が課題かといいますと、来ていただいたお子さまをときに指導したり、一緒に活動したりする運営者をこれからどうやって継続していくかです。後に続く人材がいらないのが実情です。そのため保護者の方にも参加いただいて運営していただいているところもあります。市全体を見ますと、放課後子ども教室の実施日数にはばらつきがあるんです。ですから、その運営をどうしていくのが課題です。場所に関してはご提案をいただきましたので、放課後の居場所という広い意味で捉えて活用できるかは、今後検討してまいりたいと思います。

(参加者)

私は転勤で10月に金沢から立川に来ました。気づいたことを2つ申し上げたいと思います。

1つ目が、今、2歳の子どもがいます。一時預かりの制度はあるようで、登録はしているんですが、実際、月初めでも全て予約がいっぱいの状態で非常に使い勝手が悪いです。一般的な一時預かりができない状況が立川の実情であるなと思っています。

2つ目が公園です。金沢は地方というのもあって、公園がたくさんあります。遊具も非常におもしろいものがたくさんある公園が多かったです。立川に来てみると、公園はありますが遊具は滑り台1個など寂しいなと思いますし、オニ公園はたばこや空き缶などのごみだらけで、とても遊ばせられるような状況じゃないです。

あとは、錦第三公園ですけれども、10月でも蚊がすごくて、座っているだけでどんどん蚊に刺されます。これが夏になったらどうなっちゃうんだろうと思っています。何か対策ができないのかなと思います。

(市長)

子どもさんの一時預かりについては、ファミリー・サポート・センターという事業がありまして、その会員になっていただいて子どもさんを一時お預かりするという体制をとっています。その内容については担当から説明をさせていただきます。

それから、オニ公園についてはマスコミでもよく取り上げられていまして、市としてもオニ公園の存在というのは大きいものがあります。しかし、おっしゃるとおり、好ましくない形で使うというのは大変悩ましいことです。夜間パトロールもやっています。つい先日、私もやりましたが、今後もオニ公園のパトロールの目を光らせてもらうような対策をとっていこうと思っています。

それから、虫については大変悩ましい話でして、薬剤散布というわけにはなかなかいきません。そうかといって、蚊の温床になっているような木々を切るわけにもいかず、今の

ところ、お答えする内容がなかなかないのです。何とかしなければという要望は市長への手紙という形でいくつも来ています。課題としてはずっと把握しておりますので、何とかうまい手があればということで、これから取り組んではいくつもりでおります。

(保育課長)

それでは、一時預かり保育について補足したいと思います。

一時預かり保育ですが、当初市内で4か所だったのですが、12か所まで増やしてまいりました。今、待機児童の対策で、保育園の建て替えを進めながら一時預かり保育を実施しているところですが、利用希望日が重なることがあったり、なかなか使い勝手が悪いという声はいただいております。ただ、どうしても、お子さんの人数に応じた職員を配置しなければならず、定員をすぐ増やすことは難しい状況です。

(子育て推進課長)

ファミリー・サポート・センター事業について、ご説明させていただきます。

ファミリー・サポート・センターは、家庭での子育て、地域での子育てを支えあうことを目的に、子育ての手助けをしてほしい人である依頼会員と、子育てのお手伝いができる人である援助会員の組織です。会員を面談の上で登録させていただいて、相性の問題であるとかうまくやって紹介しています。通常、月曜日から金曜日の昼間に見ていただく場合には、援助していただいた方に1時間700円の謝礼金をお支払いいただきますという形です。登録は、この建物の中にある子ども家庭支援センターでできますので、ぜひ登録していただいてファミリー・サポート・センター事業をご利用いただければと思います。

(参加者)

もちろん広さや、子どもの人数によって有資格者の配置を考えなきゃいけないというのもわかりますが、その枠を広げられるような対策を、今後してもらえると預けやすい環境になるのかなと思います。また今は一時預かり保育に登録をしていますが、以前、駅の向かい側の施設に一時預かりできるかを問い合わせしましたが、登録すらできないとお断りをされてしまいました。

言ってしまうと民間は怖いなという不安、知らない人に預けるという不安があります。しっかり資格をお持ちの方に預けたほうが安心ですし、公的施設に預けたほうが、気が楽というのがあって、なかなか踏み出せないです。みんなそういう制度があるのは知っているんですけども、資格をお持ちのファミリーサポーターだったらいいかなとは思ったりします。

(子育て推進課長)

ファミリーサポーターは資格がある、なしで登録ということではありません。ただ、援助会員になれる場合には、登録だけではなくて年に2回、研修を受けていただいています。発達にちょっと障害があるお子さんがいらっしゃるの、そういう方にも対応できるようにということで、関係する知識や、そういう子にどう対応したらいいのかを含めて力を入れて研修をしています。マッチングをするスタッフは保育士、幼稚園教諭の資格を持った者です。合う、合わないはあるものですから、そういうところも、援助会員のお一人

お一人をわかっているスタッフがマッチングしますので、ぜひ登録してご利用ください。

(参加者)

私も去年4月に引っ越してきて、子どもも2人います。昭和記念公園のことは知っていたので期待して来ました。家の近くには小さい公園がいっぱいあって、子どもも「今日は滑り台をやりたいからあそこへ行く」ということで、散歩がてら遊んでいます。遊具の管理ですが、すごく錆びていたりします。錆びで服が汚れてしまって捨てるといったことがあったり、先ほどお話にあった家庭ごみが置いてあったり、たばこが落ちてたりする状況です。そういった公園の維持や管理、更新はどのような程度、頻度で、誰が判断して行うのかをまず知りたいです。

あと、道路についてです。歩道と車道の区別はありますが、ベビーカーだったら絶対はみ出てしまうし、子供たちも「わーっ」と飛び出してしまうことがあります。私の住んでいるところは大きいトラックの抜け道になっているようで、芋窪街道に出る車が朝、夜、どんどん通ります。気をつけてはいますが、できれば何かもっと危ないよというアピールをすとか、逆に車に注意を促す何かを設置する、歩道をもっと広くしたり、そういったものを設置していただける余裕があるのかという部分です。

また、自転車で移動することが多いのですが、高松町とかは歩道が狭い上に歩道の真ん中に電信柱があって自転車を降りないと通れない。もうちょっと広がったり、電柱がどちらかに寄ってくれれば通りやすいのにといった細かいことが気になっています。

(市長)

最初の公園の遊具は、全市的に遊具が古い、あるいは数が少ないというお話はたくさん聞いております。順次、安全な遊具に取りかえるという形でやっております。公園の管理は、自治会を中心とした方々に管理委託をお願いしていきまして、地域の公園はそういう方にやっていただいている状況です。ただ、たばこやごみ捨てに対しては、全て徹底はできていないのは、私どももわかっています。マナーアップのキャンペーンなどを周知していかないといけないと思っております。

道路についてご指摘をいただいたようなところは、例えばガードレールも昔の幅の広いガードレールから、幅の狭いガードレールに取りかえる。あるいは小学生を対象にした自転車の安全運転講習会をおこない、合格者には免許証を交付する事業をやっています。それから、中学校では、実際にスタントマンを使って、自転車の通行のときにルールを守らないとこういう危険なことがあるという、交通マナーを守るようにという教室も開いています。

電柱のお話もありました。古いところは電柱が歩道の真ん中にあるところがあります。これは今、東京電力にお願いして、建て替えなどの際に順次きちんと一番端へ寄せていただいて、通行に危険がないよう対応しています。もしも危険だという場所がございましたら、市としても個々に対応しています。具体的な部分がありましたら、市長への手紙というものを各公共施設に置いてありますので、お知らせいただければありがたいと思っています。

(総合政策部長)

少し補足させていただくと、小学校につきましては、通学路の安全管理として計画的に職員や保護者らが一緒に通学路をチェックして、危ないところについては、市でやれるところ以外に、警察にお願いするといった対策もとっています。そういうチェックから漏れている場所等もあるかもしれませんが、具体的な場所がありましたら、市長への手紙などでお知らせいただければと思います。

市長への手紙に対しては、必ず市長が目を通して、お返事すべきものには全部、返答をしております。

(参加者)

1歳3か月の子と来ています。3か月の健康診断の会場の健康会館ですけれども、とても利便性が悪い場所にあります。3か月健診、6か月健診もあるので、お母さんはここに行くのにすごく大変な思いをされて行かれていると思います。これはもう少しアクセスのいい場所に変えることなどができるのかどうか、お聞きしたかったのが1点です。

もう1点が、子育ての教室とかの行事が、広報たちかわには出ていますが、その対象者に直接お知らせがなかったですし、ちょっとでも見過ごしてしまったらわからないです。そのことを、問い合わせたら、「広報に載っているから確認してください。」「広報に載っていて告知を出したので、もう締め切っています。」と、そこをもう少し対象者の方にちゃんとお知らせしていただければ。そういったことを今後変えていただければというのが2点目です。

(市長)

まず、健康会館の場所については、高松町の競輪場の近くにありますが、不便だというご指摘は受けておりますが、便利なところということは駅の周辺ということでしょう。

(参加者)

別に駅の近くじゃなくても構わないと思うんですけども、バスに乗ることは、小さい子がいると大変だと思います。ましてお母さんだけで行くとしたら、子どもが泣いてしまったりとか、歩くにもとても距離があると思うので、もうちょっと何かの近くとか、みんなが行きやすい場所だったらと思います。

(市長)

いずれにしても、健康会館は不便だというご指摘はたくさんいただいております。いずれ老朽化で建て替えをしなければならないということですから、そのときに改めて議論させてもらいたいと思っています。

広報に関して、ぜひホームページをご利用ください。広報はホームページに全部出ています。

(参加者)

健康会館に3か月健診に行くじゃないですか。3か月健診に行ったときに、離乳食教室のお知らせがそこがあれば、同じ健康会館でやるものでもありますし、参加もしやすいのかなと思います。その連動性がないです。

(保育課長)

母子手帳と一緒に受け取っていただくチラシの中に子育て便利帳というのが必ず入っていて、1年間のお知らせも載っています。毎年やっているものの中には先ほどの離乳食準備教室などがあるんですけども、離乳食準備教室についても、対象になるお子さんが大勢いらっしゃるのので、個々にお知らせするのは難しいと思います。メルマガに登録していただくと、適宜、お知らせをお届けします。また、お知らせすることでもっと皆様のところに情報が届きやすくなるということは十分あり得ると思いますので、担当部署に伝えていきたいと思っています。

子育て便利帳といういろいろな情報が詰まっているものは、毎年、子育てひろばなどにも置かせていただいています。健康会館での1年間、こういう教室がありますというのは、3月の広報と一緒に「健康事業のお知らせ」として保存版になっています。それは市の健康推進課のホームページの中に保存されているはずですので、3月の広報を見逃さないようにしていただいて、保存版として立川市の健康ということで出していますので、ぜひそういうものをご活用ください。

(参加者)

1歳3か月になる子どもが1人います。今、育児休暇中で休業しているので、結構いろんなところに出かけて、ここや、女性総合センターの子育てひろばに毎日のように行ったりしています。昔に比べたらすごく保育施策が発展して、すごく住みやすくて、立川の人は立川を出たくないだろうなという印象を持っています。ただ、土日など駅の近くは人がすごく多くなるし、ちょっと不便に感じているというところも多いとは思っています。

ママ友とも立川市民としてもうちょっとメリットがあったらなと話してしまして、ららぽーとも、中に子どもを遊ばせる施設が幾つかあるんですけど有料です。複合施設などに無料で遊ばせる場所があると、市民は使いやすいなというのを感じております。ららぽーとも期待したんですが、無料ではないというのが残念でした。立川は、国立などに比べたら水遊びができる公園が非常に少ないと思います。昭和記念公園があるのだからというイメージが強いと思うので、平日は入園料を割引にしたり、無料にしてもらったり、土日はいろんな人が来るので難しいならば平日だけとか。また、ららぽーたなども平日だけは子どもが無料といった立川市民にとってのメリットがあったら、いろいろなところに行きやすいし、立川市に住んでよかった、すごく子育てしやすいなと直感的に思える。そういうのを何人かのママ友と話しています。

もう一点は、他の子のママなどの女性と遊ぶことは多いのですが、お年寄りや老人ホームの方とこういう場で一緒に遊ぶような機会があってもおもしろいのかなと思います。おばあちゃんに、子どもがよく駅とかで「かわいいね」などと話しかけられます。子どもも、おばあちゃんなどの年代が違った人と触れ合える場があるとすごく楽しいのかなとも思いますので、そういう企画があったらいいと思います。

(市長)

立川のまちに大勢人が来るということは、間接的に市民の皆さんはかなりメリットを享受されていると思います。立川の法人市民税は多摩地域の中でとても多く、市民1人当

り3万円を超えています。にぎわいのメリットというのは、事業者に税金を納めていただくことで非常に大きなメリットが出るのです。それだけ市民サービスがいろいろできるということなので、ぜひこのことはご承知おきいただきたいと思います。

ららぽーとや、いろいろな施設あるいは店舗が進出する中では、できるだけその中に保育園をつくってほしいとお願いしてきております。残念ながらららぽーともIKEAのときも、なかなか実現できないでいます。そういうことをいつもお願いして、これからも充実させていきたいと思っています。

私、今日、最初のご挨拶で申し上げましたけれども、横のつながりをつくっていくためには、お年寄りの方々の力を借りることが一番だと思っています。これはいろんな仕掛けでお願いしてまいりたいなと思っています。

学校の登下校時には、シルバー人材センターの地域班の方がボランティアで見守りをやってくれています。黄色い旗を持って朝の7時半から8時半ごろまで、夕方は3時から4時半ごろまで、お年寄りの方がそういうボランティア活動をしてくださっています。

(子育て推進課長)

お年寄りとの交流の件について補足させていただきます。

貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。こういうことは、若いお母さん、お父さんからはあまり聞かなくて、お年寄りの方々は、やっぱり小さいお子さんと交流を持ちたいというのは思っているんじゃないかと感じます。子育てひろばでは、お子さんとお年寄りの方々の交流をしております。子ども未来センターではイクジイ・イクバアのための孫育て講座というのをやっていて、これもその一環です。地域学習館に併設の子育てひろばでは、お年寄りの方が来られていますので、地域交流をしっかりとやっている地域学習館もあります。

貴重なご意見なので、持ち帰ってさらに進めていきたいと思っています。

(企画政策課長)

お時間の都合で帰られた方で、もしお時間があればということでご意見を伺っております。

この方のお子様は五小に入学される予定ですが、学校の教員数を減らされるんじゃないかという話を聞いているということで、これから、例えば発達障害のお子様なども増えていく中で、教員が減らされるのは非常に不安で仕方がない。市長は教職員の人数や環境について何かお考えはありますかというご質問がございました。

(市長)

子どもが減れば教員が減ってくると思いますが、それ以外で教員を減らすことは私は考えていません。また、少人数学級が大きな流れになっていますので、少人数学級が増えれば増えるほど、教員の数は増やさないといけないという大きな流れの中にあると思っています。

(参加者)

ごみ減量のためとは思いますが、ごみ袋がもう少し安かったら家計も助かるかなと思

っています。10枚で800円はやっぱりちょっと高過ぎるかなというのがありますので、検討していただけたらうれしいです。

(市長)

10枚800円というのは一番大きい袋ですね。近隣市との比較では、立川市は決して高くはない、安いぐらいです。

実は、ごみ袋を有料にした結果、ごみの分別が飛躍的によくなりました。日の出町にお願いをして、どうしても燃えない、燃やせない、処理ができないごみの埋め立てをやっています。しかし、立川市のごみは、今は埋め立てがほぼゼロになりました。ほとんど全てがリサイクル、ないしは焼却灰でつくるエコセメントになっています。ごみ袋を有料化した結果、おそらくもうこれでごみの埋め立て地の心配はしないで済むようにまで、市民の皆さんのご協力をいただけるということになりました。ごみ袋の値段については、近隣市と比べて高いようでしたら考えてまいりますけれども、どうかご納得をお願いいたします。

(参加者)

先ほど、企業から入る税金で見ますと、ほかの市と比べて高いという話がありました。そうすると、今のごみ袋はほかの市と比べるのは変じゃないかなと思います。例えば23区のどこかですと中学生ぐらいまでは医療費がただという話がありますが、立川は違います。立川単独でごみの事業として収支を考えるのが筋じゃないかなと思うんですが。

(市長)

23区の財政状況と多摩地区の財政状況は全く違います。税金がたくさん入ってくるというのは、法人市民税に限ってです。個人の納税額を含めて計算しますと、立川は多摩26市と比べても裕福という形にはなりません。

(子育て推進課長)

ごみ袋の価格が他近隣多摩地域と同等という意味合いについてです。ごみ袋は、立川市はずっと無料でした。周辺市が有料化してきたときにどういうことが起こったかといいますと、周辺市からごみを持ってきます。そういうことが起こりますので、やはり周辺と価格帯をそろえておかないと、ほかからも持ってきてもらいたくはないので、そういう意味合いでそろえているということです。

3 閉会の挨拶

(市長)

皆さんの貴重なお時間を拝借いたしまして、いろいろなご提言やご提案をいただきました。大変ありがとうございました。いろいろな面で、まだまだ市政を充実させなければならない面がございます。ご提言を生かしながら、これからも一生懸命やってまいりたいと思います。

今日は本当にありがとうございました。